

くろひして、扱箸庖丁を取いだし、箸庖丁一ツに右の手に持そへ、組まへ左の足の上のとをりに
なみをよく直す、尤箸は左、庖丁は右、大方一寸二分計のつもりにあけて、銘を上になして置べし、
扱鳥魚にかゝり候時、箸包丁に手を一度にかけ候と、はやく庖丁をさつと引分、箸は則左の足の
通りにきつとたて、持かため、包丁は右の足のとをりにはをうへになして、先をきつとたて、
持かため、まづかに大手前にかゝりたるがよし、總じて組前にて湯水を好み、物のみだりにいひ
口をたゝき、頭をまげ腰をかゝめなどする事悪し、たしなみ也、

鶴白鳥鴈鴨は、先鴈かしらを前になし、組のまん中になをし、まのはぶしをひろげ、首を左の羽が
いに持せ、左のむねより包丁にて水をなでおろし、右をなで、左のわきに箸をたて、左のむねよ
り切めを付、右のむねよりをろし、頭を右の羽がいにもたせ、左のむねをおろし、扱も、のまのつ
がいをはなし、左より切はなし、組右のむかふのすみの足を右になしてをき、頭を左へまげて
右を切はなし、右の所へなをすべき也、扱胸がらは左の向のすみへなをすべし、扱組をよくなで
て、左の身より引なをし、足を右へなして、頭の次へなをし、羽ぶしのつがいをはなし、身を組むか
ふの中のはづれにをき、羽ぶしは胸がらの通りの下に置、はしは中の向ふのはづれに直す、右身
をもかくのごとし、

雉子山鳥鳩等は、先きじ頭を左にして、はしを前へむけ、腹を前へむけて、よこに羽がひをしかせ
てなをし、頭をねより切て、左の向ふのすみへ直し、扱おろしやう、何れも右に同前なり、

〔四條流庖丁書〕一女ニ参ラスル物ヲバ大ニ切ベシ、男ニ参ラスルヲバ小ニキルベシ、口傳、○中略

一タコキリモルベキ事、タコヲバ前へ置テ可出、扱飯ノ御回ナラバ、如何テモ薄ク丸ク可切、御肴
ニハ少厚ク長ク切ベシ、何ニモイボヲスキ皮ヲムキテ可切也、

〔宗五大草紙〕一鯨のさゝら切と申は、おのかたよりはじめて、一刀ヅ、切のぼせ、取なをして頭